

ひがしの

平成8年10月15日

No. 46

発行 東野公民館



東野文化祭

11月3日(日)午前9時～午後5時

4日(月)午前9時～午後3時

ところ 東野公民館

東野歌舞伎大会

11月4日(月)午後1時開演
ところ 東野小学校体育館

文化祭を迎えるにあたって

東野文化祭実行委員長

篠原 佳昭

二十一世紀を迎えようとしている今、物の豊かさという時代から、心の豊かさの時代へと変わろうとしている。心に潤いのある生活を求めて、生涯学習の重要性が叫ばれる今、生涯を通じて芸術にふれることは、豊かな感受性を高め、生きがいをつみだす上でも大切なことである。

子供や一般の方が物作りの楽しさや、芸術の感動に直接触れることができる場を提供することは大きな意味があると思います。皆様が一技、一芸、一能に興味を持ち自ら打ち込むものを持ち、人のため地域のために役立つことの喜びを味わい、お互いに心を通い合わせる仲間の組織化を図った豊かで活力のある地域づくりを願ってやみません。

郷土にいきづく生涯学習

私とマラソン

三郷町 度 会 勝 磨

「私とマラソン」というテーマで投稿させて頂く事になり、大変有難く思うと同時に、単に走るというだけの事でそれ程でもない気がするし、自己宣伝になってしまう様にも思ったりで、迷いに迷ったが書いてみる事にした。

どこのテレビ局の何のコーマーシャルか覚えていないが、「走り始めたのは何時の頃からか」というのを見て、自分の子どもの頃とダブらせて感慨深く見た事があるが、小学校三年生頃祖母のお使いで農協へ行った時、走って往復し、「速かった」と誉められ嬉しかった事が走る楽しさを覚えた初めの様に思っている。

さて、私の小学生の頃は放課後になると、青年団の人達が来て走ったり跳んだりしていたので、付いて走ったし、岐阜の学校に行って陸上競技部に入り走る為に来たのかと思う程走った。

戦時中なので今の様な華やかさは無かったが、あちこちの大会に良く行ったりし今や花ざかりの駅伝にも出場した。学校に勤める様になってからも、子どもや先生達と良く走った。そして今のランニングブームと共に益々走る事が多くなって行った。

七十一才となった現在お陰で元気なので、次の様な目標を持っている。

一、年間に三千 km 以上走る

二、マラソンを四時間以内で走る
三、年二十回以上大会に参加する
四、あくまでも楽しく走る

この頃七十才代という区分で出場した大会で成績の良かったものを上げて見ると、伊勢神宮十 km 一位、京都シテイハーフ二位、全日本ベテランズマラソン二位（北海道網走）台風十四号に巻き込まれ冷たい風雨に苦しんだ全日本マスターズハーフ二位（富山市、魚津市）

さらに、昨年十月は古稀記念にと長年の宿願であった伊勢神宮へ「自分の脚で走って参拝する」を果たした。

又この頃ブームに乗ったウルトラマラソンに挑戦したいと、去る六月に北海道サロマ湖百 km ウルトラマラソンに参加し、ようやくにだが制限時間内に完走する事が出来、自分で自分を誉めているところである。朝五時スタート夕方六時までにゴールという制限時間を考えながら、一日掛けて完走出来る

事になったゴールが見えた時の感激の涙は止める事が出来なかった。最初のフルマソン完走の感激を大きく越えるものであり、終生忘れられないと思うし、あの感激は大切にしたいと思っている。

ところで、年間三千km走るには毎日10km走って三百日かかるが、寒い日暑い日雨の日もあって、「走ろうか、止めようか」と迷うのが普通であるが、私の場合「やらなければ」という思い



が大きいので走る事が多い、しかも、寒さが厳しい程満足感に似たものを感じるし、雨の日は玄関を出る時は色々思うが、濡れてしまえば却って気持ちすがスッキリして来るもので、自分もおかしく思う。

とは言え、何と言っても世間一般で言えば老人なので、走った後は慎重に後始末をしているので風邪など引いた事が無い気がする。

与えられたスペースが近づいて来た

ので、マラソンに各地へ行き多くの人に会い、その人達から教えられたり気付けられたりする事が多いが、その中で二つ。

美人とは言えないが「いい顔」の人が多い。何かに向かってひたむきな人の顔だと思う。そんな人達に会えるだけでも幸せだと思っている。

健康でないと気分が悪い気分が悪いと顔が曇るという事になるのだと思う。何としても健康で心豊かに生きる事が出来る様に努力したいものである。

この頃は長寿や老人が大切にされて有難い時代であるが、何としても健康で心豊かに生き、「亀の甲より年の功」若い人の手本になれる生き方をしたいものである。

「自分が健康でマラソンが出来る事を感謝し、他人にちよっぴりでも何かしてあげられる事を幸せに思える私でありたい」という人にこの頃会い、幸せで偉い人だと思った事である。

いきいき生涯学習 ひがしの

平成八年度前期の活動報告

こども映画会

八月六、七、九日

プールのあとに公民館でこども向けの映画会を開催しました。「三ねん寝太郎」「吉四六どん」「度十公園林」など幼児から小学校高学年くらいまで



楽しめるもので、プール帰りの子供や親子づれなどで毎回六十人くらいの方がみえました。

たのしかった夏まつり

八月十日

子どもみこし、ふるさとクイズ、観劇、鼓笛、山紫水明太鼓や各種の夜店、踊りなどなど、楽しいもおしが盛り沢山で多くの人出がありました。



踊りの途中には雨もぱらつきましたが最後の抽選会まで多くの方が残ってください、たのしい夏まつりになりました。

ふるさと美化活動が始まりました

九月十七日

第一回目の東野清掃活動を行いました。

老人クラブの方は、各支部ごとに朝早くからゴミ拾いを、また、東野公民館に集合された方は、二組に分れ、東野駅の清掃、周辺のごみ拾いと浜井場と小の川の間（番屋付近）のごみ拾いを行いました。

投げ捨てられた空き缶も多く、また、不法投棄もあり、マナーの悪さにおどろきました。

これからも、毎月十七日、午前八時から清掃活動を行います。老人クラブの方は各支部の集合場所へそれ以外の方は、公民館前に集合です。ご都合のつく時がありましたら、ふるさととの美化活動にご参加ください。

郷土の美術入門講座

五月十八日

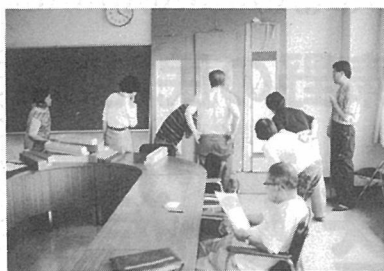
第一回「郷土の焼き物について」

恵那地方の焼き物の歴史や特徴、原料になる土のことなど、自ら研究されたことを陶芸家の各務周海先生が話をしてくださいました。

六月一、十五日

第二、三回「郷土の画人」

江戸、幕末、明治や恵那、中津川、付知など時代や地域ごとに、その画人の描いた軸をみながら話をうかがいました。



有名、無名の画人のことなど、自らの足で調べたことが多く、本にはない話を聞くことができました。

恵那市の行政出前講座

七月二十三日

生涯学習って何だろう

生涯学習研究所

恵那市の生涯学習の推進方法や「生きるよろこび、役立つよろこび」の大切さなどをコンピュータを使って説明をして下さいました。

八月二十八日

ごみの減量とリサイクル

環境課

リサイクルセンターや最終処分場などの施設のことと、恵那市のごみ収集、資源回収の現状について話を伺いました。十五年前と比べるとごみの収集量は倍近くに増えていきます。資源化率もゼロから二十四%とよくなっています。増えつつけるごみを減らしたりリサイクルするためには一人一人の心がけが大切だと話して下さいました。

九月二十四日

恵那市の未来を聞いてみよう

企画課

自然と文化と産業が調和した快適都市像を目標に、恵那駅前周辺整備や生涯学習の推進など、第三次総合計画のことを、写真や完成予想図など、映像を使いながら説明して下さいました。



ことを、写真や完成予想図など、映像を使いながら説明して下さいました。

公民館ギャラリー

(ロビーの展示)

五月 アートフラワー作品展

六月上旬 さつき展

六月下旬 世界の名画展(レプリカ)

七月上旬 ペトログラフ写真展

八月月上旬 花ひらく恵那写真展

八～九月月上旬 東中学校生徒作品展

東野の民話 送り狼

土方嘉章

大昔 東野の大畑^{はん}一帯は榛^{はん}の木が一面に生えていたと聞いて居ります。

此の原野が徐々に開拓され灌漑用水を引き水田が造られ其の後長い年月をかけて水田を増やした為に、岩村藩でも五本の指に入る程沢山の米が取れる様になりました。肥料と言えば木草^{くくさ}だけでした。木草山が明けると村中の人が一斉に山へ木草を刈りに行きそれを堆肥^{たいはい}にして田圃^{たんぼ}に入れたものです。

村の人達は樵^{せう}や馬方^{ばほう}をしてお金を稼

ぎ山へ薪を伐りに行ったり、魚を釣り茸を取り、又山苺や山葡萄、アケビ等を探って来て子供達に食べさせ、あらゆる大自然の恵を受け、自給自足の生活をして来たと思われまふ。

男は山へ、女は家で針仕事と言います。

毎日山仕事をしている樵^{せう}が一日の仕事を終えての帰り道、後の方で嫌な気配を感じたので振り返ると一匹の狼が

ついて来る。俺は山の獣達とは友達や、

と言っていたが此の狼は今にも飛か

つて食いつきそうな鋭い目をして隙を伺

っている。油断はならんぞと思いを配

りながら帰って来るうちに、湯の下屋

の前の橋迄ついて来た。

何時もならば此の川で草鞋^{わらじ}の泥を手

で落していたがそんな隙を見れば首

に咬みつくと思ひ、立ったまま俺の家

はもう近いこんな遠い所迄送って来て

くれたなあと言ううと山へ向ってさっ

と帰って行った。そして幾日かたつた

帰り道又狼がついて来た。こんな恐

い事が度々有って村の人達にもしもの事が有れば大変な事になる、村の人達に知らせてやろう。もし狼がついて来たら手で泥を落すな、立ったままで礼を言え、そうすれば狼は帰って行くからと此の様に大昔から私の子供の頃迄語り継がれて来ました。

私の子供の頃は田植と言えは皆、藁草履を履いて田圃^{たんぼ}へ行った。子供でも大事な労働力で家中総出で田植をした。

やがて日暮になって家へ帰る時藁草履を履いたまま小川で足の泥を落す。

其の時おばあさんが、手で洗うと山犬

(狼)が食いつくぞ、足と足で洗えと

何時も言われるので其のうちに癖とな

り手では怖くて洗えなくなりました。

狼が送って来たあの小さな橋を「送

り橋」と呼ぶ様になり、其の後近くの

光岡義雄氏宅が送り橋と言う屋号に成っ

てしまいました。この様な民話も時代の

の流れと共に忘れ去られて行きます。

ふと思ひ出してペンを執りました。

新しい講座の紹介

みんなで歌おう

なつかしい童謡

なにげなく口ずさむなつかしい歌、野山をかけめぐり、小川で魚とりをした、そんな幼き頃の思い出がよみがえってきます。心にのこる歌をみんなでうたってみませんか。

みなさんと相談して曲目を選びます。寒い季節になりますが、午後の暖かくなる時間に設定しましたので、健康な心と体づくりに、ぜひ、ご参加下さい。

【開講要項】

日時 第二・四木曜日

午後一時三〇分～三時三〇分

開講日 十一月十四日（木）

講師 遠藤孝夫先生

期間 八年十一月～九年三月（十回）

巡回ギャラリーふれあい

七宝焼「宝祥」

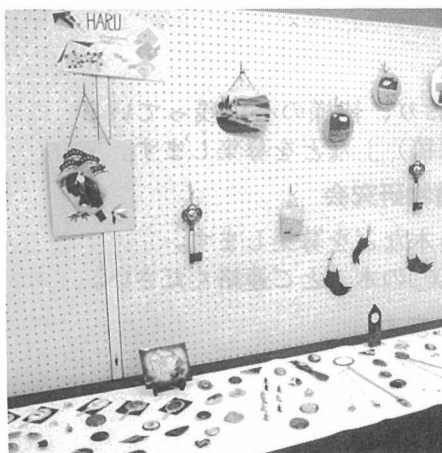
「宝祥」（恵那市社会教育活動団体）の方の作品をお借りして展示します。東野の展示期間は、左記のとおりです。皆様、ぜひ、ご高覧ください。

展示期間

十月二十四日（木）～二十九日（火）

展示会場

東野公民館



読書の秋になりました

ふるさと図書館（どうだん文庫）

中央図書館の本を身近な所で借りていただける様に、公民館ロビーに文庫を設置し、二ヶ月に一度は、本を入れ替えています。リクエストも出来ますので、ぜひ、ご利用ください。

本の紹介

一般向け

まどろみの秋 藤堂志津子

疼痛二百両 池波波正太郎

神戸震災日記 田中康夫

木の博物館 日本人として知っておきたい木三十種

稲本 正

ゴッホの愛した浮世絵 NHK取材班
スーパースクリーンテクニク 三木基司

親子・子供向け（かみしばい）

豆っ子太郎、いたずらぎつね、ちびっこドラキュラ町へいく、かがくのアルバムタンポポ

他にもいろいろあります。

生涯学習地域づくり 東野文化祭 募集します

作品募集

絵画・書道・写真・高齢者の作品・子供の作品・菊・盆栽・山野草
陶芸・手芸・切り絵・はり絵・アイディア作品・木工品・めずらしい
野菜・花など・皆様の手作り作品

古美術品・骨董品など……観酔会

“東野、私の歴史……東野歴史研究会

それぞれの家に伝わっており、皆様の心に残っている
「写真」「品物」「話（原稿）」などを募集します。

東野の銘木・珍木・銘花木……東野植物研究会

皆様が“これだ、”と思われる木などを募集します。
写真または「〇〇にある〇〇の木」とご連絡ください。

たのしい運動会のスナップ写真を募集します。

出展募集

野菜・花・衣類・日用品など

参加募集

囲碁大会 11月3日（日）午前10時

俳句大会 11月4日（月）午前10時

作品の搬入 11月2日（土）午後1時

作品の搬出 11月4日（月）午後3時

上記の申し込み、お問合わせは東野公民館まで ☎26-2555

東野文化祭実行委員会